安心・安全なまちづくりを目指して

災害協定を2件締結しました

7月21日、株式会社エアーシールドとの「災害時における物資供給に関する協定」の締結調印式が開催されました。この協定は、災害時に避難所などで必要となる物資の確保を図るため、気泡緩衝材で作成された折り畳み式簡易ベッドやパーテーションなどの、物品の供給を受けることを目的に締結するものです。

また7月28日、ALSOK株式会社との「災害時における避難所等の安全確保等に関する協定」の締結調印式が開催されました。この協定は、避難所の安全確保及び運営支援並びに、無人航空機を活用した被災状況等の情報収集といった業務で、円滑に協力を得られるようにすることを目的としています。

問 危機管理課 ☎079-435-0991

はりま☆キッズタウン☆ニュース

こども会議（2回目・3回目）を開きました。問い合わせ先 こども課☎079-435-2362

8月にこども会議2回目と3回目を開きました。

2回目は8月8日にあり、子どものけんりが大切に守られるためのルール（条例）を作るのにあたって、委員がどんな想いを持っているかを話し合いました。

「けんり」は子どももおとなもしあわせに生きるために必要なものということや、「だれに対しても自分の意見を言うことができる」「安心・安全で過ごせる」「自分らしくすごすことができる」ことが大事だとの意見が出ました。

3回目は8月20日にあり、ルールの名前をみんなで考えました。委員それぞれが案を考えてきて、それを3つのグループにわかれて話しあったけっか、3つの案ができました。2学期がはじまったら、小学4年生から中学3年生のみなさんにどれがいいか投票してもらう予定です。どんな案に決まったかは、12月ごろにホームページで発表する予定です。どんな名前になったか、楽しみにしていてくださいね！

▲グループの意見を発表しました

ルール（条例）の名前の案

①はりまみんなのためのすくすく条例
②はりまっこ権利みとめあい条例
③いきる・そだつ・まもる・こどもの権利条例

▲委員バッチ

教育広報 きゃんぱすだより

兵庫県立播磨南高等学校 生徒会

▲潮風祭ステージ部門　第1位「シンデレラ」

▲はりま春風フェス

I（アイ）♡（ラブ）播南

今年の潮風祭（文化祭）は昨年と比べて、バージョンアップしました。テーマは「I ♡ 播南」。クラス、学年、学校全体が一丸となって作り上げた最高の思い出となりました。

1年生は展示、2年生はステージ発表、3年生は模擬店（飲食）という内容でした。飲食の模擬店は数年ぶりに行われ、家庭科学部からは手作りのパウンドケーキや外部からはキッチンカー2台も招き、大いに盛り上がりました。2日目の午後からは吉本興業㈱の4組（ネイビーズアフロ、チェリー大作戦、バタハリ、おたまじゃくし中西）の芸人の方々がお笑いライブをしてくださいました。プロのお笑いを見ることができ、一緒に参加する場面も多くあり、とても印象に残っています。

播磨南高校の活動は校内行事だけではありません。「はりま春風フェス」「国際交流ジTARIMA」「大中遺跡まつり」といった播磨町のイベントでの地域の方々との交流や、本校でスポーツや勉強を夏休みに小学生と一緒に行う「スポーツ体験教室」「学習教室」など、様々な形で交流することを大切にしています。

今年は日々の出来事を学校ホームページに掲載することに力を入れています。ぜひ、皆さまも一度ご覧ください。「I ♡ 播南」から「We ♡ 播南」になることを願って。

まちづくりアドバイザーがお届けする まちアド通信

協働推進課住民協働係 ☎079-435-2364

人が集まるのは正しそうな場所？楽しそうな場所？

ここ数年、播磨町ではいろんな場づくりが進んでいます。例えば、自治会公民館の活用やコミセンの活用など、多様な人が集まる場があります。

夏休み期間中、二子北自治会では、3日間にわたって自治会公民館を開放しました。「最近はなかなか友達の家にも遊びに行きにくいんじゃないか」という発想から、昼寝でも遊びでも勉強でも、何をしてもいいよという趣旨で公民館を活用したようです。それほど多くの参加はなかったようですが、それでも子どもたちが遊びに来ていたようです。

他にも夏休み期間中に、中央公民館や東部コミセンでのラジオ体操、自治会での夏祭りなど様々な集まる場や機会がありました。

こうした人が集まり、つながっていく場にはいくつかの特徴があります。その一つが「楽しそう」なことです。例えば、「正しそうな場所」と「楽しそうな場所」があった時、どちらに行きたいと思いますか。公民館や図書館や体育館などはどうしても「正しそうな場」になりがちです。また利用者も「公共施設は正しいもの」と思いがちなところもあります。公共施設や地域の居場所がもっと楽しそうな場になったらどうでしょうか。「正しいこと」と「楽しいこと」のあいだにある「あそび」がこれからの地域づくりにはとても大切だと思います。

【まちづくりアドバイザーとは】　播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。